

入道ヶ岳 906.1m 鈴鹿 地形図「伊船」 ポンポン山雑感

2019年1月21日

三鍋敏郎

入道ヶ岳は冬山入門に最適である。京都北山や湖北の山に比べ積雪量も少なく、アプローチが簡単で、歩行時間も短く、山頂からの展望も良いので訪れる登山者が多い。

椿大神社にある登山者用の駐車場に車を停めて境内を歩く。例年は北尾根にある愛宕社の鳥居をくぐり石段の参道を登るのだが、本日は地形図に表記されている標高点 274mを越えた場所。椿溪谷キャンプ場のトイレの有る堰堤広場に向かい、ピーク 498m から南に張り出した短いヤセ尾根を登る。

岩混じりの急斜面を苦勞して標高差50mほど登り切ると比較的歩きやすい尾根に乗る。暫く歩くとやや急斜面になり、よく踏まれた愛宕社からの道に合流する。そこからすぐにP498mに到着する。一息入れてP498mから西に向かう。ヤセ尾根を少し下ると北尾根の急登が始まる。標高差250mほどのジグザグ道。自然林に囲まれて気持ちは和むが登坂力が試される。一部トラバース気味の登山道もあるが、アセビの純林群生地通過は直登に変わる。

急坂を登りきると、なだらかなアセビの群生地。風が冷たく本日はガスで展望は無い。根雪の上に積もった新雪が気持ちが良い。アイゼンもワカンも必要なく歩けるのが嬉しい。

標高800m辺りのヤセ尾根から、入道ヶ岳山頂が見える。少ピークを下り北の頭に向かう。天気の良い日は鈴鹿の山々が見渡せる台地だが残念ながら展望は無い。

北の頭の分岐から南に向かうと西側はアセビの灌木帯、東側斜面は鋭く切れ落ちている。灌木帯を縫うように進むと、禿頭の入道ヶ岳山頂に出る。吹雪で寒く展望は無い。鳥居の辺りで記念写真を撮って、早々に二本松尾根コースへの下山に向かう。アセビの灌木帯の中の厳しい下りが続くので、足元に神経が集中し、あたりの樹木を楽しむ余裕は無い。

やがて二本松避難小屋に到着すると、一人の男性が食事中なので、私達もランチタイムとする。

昼食後は、時折雲が切れて陽光が差し込み、遥かに伊勢湾の海岸線辺りが微かに見え隠れする。道が穏やかになり暫く進むと、滝ヶ谷道との分岐点に出る。左にむかうと、植林地の中のジグザグ道。ひたすら下ると井戸谷の堰堤に出る。砂防ダムは文字通り砂で埋め尽くされている。朝に取り付いたヤセ尾根が左手に見えている。舗装道路に出ると、頭の中に草餅がチラツキ始める。

★メンバー 三鍋他4名 ★コースタイム 登山口 8:38～P498m 9:38～避難小屋 9:50～
山頂 11:04 発 11:07～二本松避難小屋 11:40 発 11:55～駐車場 12:53